AMDA Journal ダイジェスト 号外

発　行：2003年7月　No.17　　定価：100円
発行元：〒701-1202 岡山市楢津310-1
特定非営利活動法人 AMDA（アムダ）
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail：member@amda.or.jp
編　集：AMDA Journal 編集室
ホームページ：http://www.amda.or.jp

AMDAスリランカ医療和平プロジェクトはじまる

AMDAのスリランカ医療和平プロジェクトは、20年間におけるスリランカ国内紛争の停戦合意をうけ、言語、宗教の異なるタミル、シンハラ両地域の住民への医療支援を目的に2003年2月より開始しました。これまで北部のヴァヴニアを拠点とした巡回診療、南部のハンバントタ地域を中心とする保健教育を中心にプロジェクトを実施してきました。

ヴァヴニアでは、これまで7箇所、月曜日から金曜日まで週5回巡回診療を行い、延べ3千人の患者を診察しました。また4月からは口蓋破裂や戦争顔面障害の形成外科巡回診療を開始しました。一方、ハンバントタの保健教育のプロジェクトでは、保健衛生知識の提供に留まらず、国民意識形成の一助になればと、タミル語、シンハラ語、英語の3言語表記によるAMDA健康新聞を発行しています。今まで計19人の日本人がこのプロジェクトに参加しました。また、スリランカ国籍のローカルスタッフも30名以上参加しており、特筆すべきは、海外在住のタミル人も参加してくれていることです。今後、東部のトリンコマリ、バティカロア、アンパラに進出する予定があり、AMDA多国籍医師団としてバングラデシュ、カンボジアからの医療スタッフも参加することになっています。

またこの度は、通常の巡回診療に加えて予期せぬ緊急事態にも応対しました。5月半ば以降に起きたスリランカ南部での洪水被災者に対して緊急救援チームをAMDA支部とAMDAの姉妹組織セイントジョンアンビュランスで構成しました。死者270人以上、避難している住民は15万人以上にも及び、スリランカではこの50年間で最も過酷な災害となりました。

避難民が最も必要としている飲料水、医薬品、栄養食品を供給するため、水タンク、ガスコンロ、医薬品等を2週間分と仮テント、栄養給食を供給しました。また、3メートルも浸水した村々にボートを提供し、人の救出や物資の運搬を行ないました。

長期的な援助として、飲み水を確保するために、井戸にたまった水を汲み上げるためのウォーターポンプを貸し出し、井戸の水をきれいにするための洗浄薬を供給しました。

今回の緊急救援チームはタミル人、シンハラ人、日本人とで構成しました。北のタミル人が以前は行き来が出来なかった南へ、救援チームの一員として救援活動したことは現地でも異例のことです。緊急救援を通して共に助け合い、被害を受けた人たちの苦しみを分かち合うことが、真の和平への第一歩になるのではないかと感じました。

AMDA調整員　濱田　祐子（2003.5.28）

AMDA医療和平プロジェクト

「医療和平」とはAMDAが提唱したコンセプトで、紛争当事者の双方に中立な立場で国際医療協力を行い、紛争の緩和を図り和平プロセスに寄与する試みです。今までのプロジェクトとしては、コソボ紛争で対立するアルバニア系とセルビア系住民双方への医療支援、アフガニスタンの北部同盟とタリバンの双方と合意したワクチン停戦（子供達への予防接種投与の際には協力し合う）があります。スリランカのタミル人、シンハラ人双方への医療支援はAMDAにとって3番目の医療和平プロジェクトとなります。

2003年5月　ケニア・アルジェリア・スリランカで緊急救援活動実施

4月の終わりから5月に掛けて発生したケニア、5月半ばに発生したスリランカ南部での洪水被災者、そして5月21日に発生したアルジェリア地震被災者への緊急医療救援活動を実施しました。

ケニアではAMDA多国籍医師団を編成し救援にあたり、いち早く現場に掛けつけたNGOとして現地保健省等より感謝状を頂きました。（2ページ関連記事）

イラク復興支援プロジェクトへむけての現地調査を開始

イラク国内での復興支援を本格化させるため、公設国際貢献大学校と連携して、5月31日、医療調査団をイラクに派遣しました。AMDAはこれまでイラン南部アフワーズ側からイラク人被災者に対する緊急救援を実施していましたが、今後はイラク国内での本格的な支援を開始します。（3ページ関連記事）

SARS対策支援　―中国・台湾へマスクを寄付―

6月12日（木）、全世界を揺るがす「重症急性呼吸器症候群：SARS」対策支援として、中国・上海支部および台湾支部からの要請を受け、予防用医療物資を提供しました。

マスク7千個、ガーゼ、速乾式手指用消毒薬等を送りました。予防用医療用品には阿蘇製薬株式会社、高塚薬品株式会社から寄贈されました医療物資も含んでおります。

今後も要請に応じて予防用医療物資の提供を行なう予定です。

緊急救援

ケニア洪水緊急救援

診察中のIMCUの現地医師

ケニアでは4月20日から5月6日までの17日間に、各地で200～500mmの降水が観測され、通常4月の月降水量の2～9倍となった。この大雨の影響で、60,000人が避難、40人以上が死亡、家屋・道路・作物等に大きな被害が出た。5月5日、ケニア政府は今回の洪水について「国家的災害」宣言を出し、国際支援を求め、被災地に軍を配備しました。同時に、国連人道問題調整事務所（OCHA）も支援アピールを発表した。最も被害が深刻な西部州ブシア（Busia）では、昨年完成したばかりの堤防が崩壊し、15,000人の住民が家屋を失い、援助機関によって設置された高台のシェルターに避難した。当地では住民がマラリアの危険にさらされ、トイレの崩壊等による下痢等の水感染症が危惧される事態となった。

AMDAは、IMCU（International Medical Collaboration Unit・国際医療協力機構）と合同で、被災地での感染症の蔓延等による二次災害の発生に対応するため、ケニア西部ブダランギ（Budalangi）南部地区のルガレ（lugale）避難民キャンプにおいて、被災民に対する医療を中心とした緊急救援活動を行った。そこには現在も家屋を失った約3,000人、618世帯が避難している。被災後いち早く現地入りしたAMDA／IMCUのチームは、ケニア保健省から医療サービスの提供を依頼され、ここを支援活動の場所として決定した。

被災地では、ブシア県知事、ケニア保健省スタッフ、医師、公衆衛生官、赤十字、ケニア陸軍、報道機関等から成りる災害管理委員会に加った。

人々は避難キャンプで寝起きしており、水・食糧の不足が懸念される上、被災民の急増に伴う感染症などの二次災害が心配されたため、病気予防が大きな鍵となった。そこで、AMDAチームは具体的に以下の2つの事業を展開した。

キャンプ内に設置したAMDA/IMCU診療所

1）臨床検査：ルガレキャンプ近郊のムコボラ（Mukobola）クリニックでは、検査体制に不備があり、マラリア等の感染症に対する検査体制を整えた。

2）キャンプでの診療：保健省と協議の上、ブダランギ地区ルガレ村の避難民キャンプにおいて1日約100名の患者を診察。多いときはケニア陸軍と共同で1日400名を診療したこともあった。

現地での主な病気は、マラリア、下痢症、皮膚病、性感染症。重症の患者は、車両で被災地より約1時間離れたポートビクトリア病院へ搬送した。

マラリヤ患者は地域的なことも要因の一つと考えることができたため、今後はケニア軍の運営する週一回のモバイルクリニックで対応できると考え、今回の緊急医療支援を一旦引き上げることに決定。今後の医療活動はケニア保健省へ引き継ぐことになった。

災害発生後、被災地で活動する唯一の日本の団体として、ケニア政府保健省（MOH）、ルガレ避難民キャンプから感謝状をいただいた。

医薬品を携えていち早く現地入りしたAMDA・IMCUの合同救援チームは、現地のコーディネートを統括する保健省の大きな信頼を得て、チームの活動は迅速かつ確実なものとなった。

アルジェリア地震緊急救援

2003年5月21日（水）19時45分ごろ（日本時間22日午前3時45分ごろ）、アルジェリアの北部でマグニチュード6.7といわれる地震が発生し、大きな被害が出ていることが伝えられた。

震源地は首都アルジェ（Algiers）の東部テニア（Thenia）の近郊であり、第一報で死者250人、アルジェリア北部の主な町、ブウメルデス（Boumerdes）やルイバ（Rouiba）などで多数の家屋倒壊が起こり、さらに多くの死者が出ることが想定された。やはり、報道が更新されるたびに死者やケガ人の数は増え、2日後の24日には死者数1600人と報じられた。

AMDAは、26日、緊急救援事業部職員　佐伯美苗を派遣。

現地ではまず日本大使館を訪問し、領事より国内の治安状況や物価などの基本情報をご教示いただき、さまざまなご助言をいただいた。そして28日、ブウメルデス市内の状況と被災者キャンプの状況を調査した。

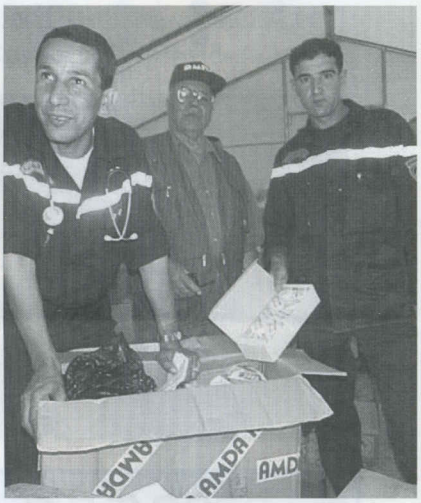
ブウメルデス市内でも大きく倒壊した家屋の多い地区と被害が比較的少なくてすんだ地区とがあった。団地では隣近所が集まってテントを張り、肩を寄せ合うようにして暮らしている。

市内の最大の人口を抱える、オリンピック競技場跡に設置されたキャンプを視察したところ、仮設診療所はすでに稼働しており、多くの患者がつめかけていた。重傷者など緊急患者は首都に搬送されているため、テントの中には比較的軽症者と付添家族であった。搬送体制が動いていることは、少なくともこの周辺地域ではロジスティクスラインが壊滅していないことを意味する。

仮設診療所を運営する複数の地元団体のスタッフは、この競技場跡のキャンプは落ち着きつつあるが、慢性疾患を悪化させている患者が多いと語った。ある地元団体は心理ケアのテントを独自に開設しており、すでに列をなしている状態であった。

地元団体「プロテクシオン・シビレ（Protection Civile）」など仮設診療所を運営する各団体と話し合った結果、この仮設診療所に水や包帯などを提供することになった。町中にあるとはいえキャンプのテント内での診療活動であり、衛生的な水や外用品の使用を節約しているとのことであった。29日午後、要請のあった物資をもって再度訪問。

「日本もいつも地震ばかりだな。今日のことはほんとうに感謝してるよ。日本に帰ったらぜひお礼を伝えてほしい」十数名のスタッフに握手を求められ、患者さんたちからも満面の笑顔で歓迎をうけた。



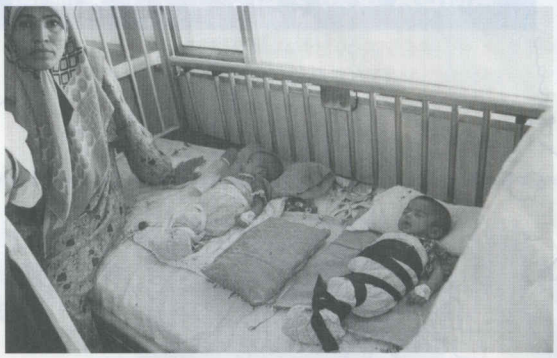
AMDAからの支援医療物資

大きな制約条件が課せられた状況下での緊急支援であったが、現地団体がしっかりと被災者の支援活動に取り組んでいる姿に感銘をうけた。しかし一方で、それは、大きな災害に何度も見舞われ、国際社会の中では孤独を強いられているこの国の、自分たちでなんとか乗り切っていこう、という諦念に近い意志さえ感じられた。今後は、現地団体がすでに行っている緊急医療活動の側面支援を継続していきたい。

イラクで見てきたもの

（復興支援調査レポートより一部抜粋）

公設国際貢献大学校上席研究員　谷合　正明



街の様子

バグダッドの町に近づくにつれ緊張感が増す。イラク軍の戦車が無残な姿で転がっている。パトロール中の米軍の戦車と比較すると、まるで素手で勝負するかのような規格の戦車である。バグダッド市街にはいると、破壊された建物を多く見るようになる。金融省、外務省、電話局、イラク秘密情報局、軍事施設、その他サダム・フセインの中枢部と直接関係あるものは、徹底的に破壊されていた。その姿はあまりに無残。中にはスーパーマーケットなど破壊される理由がわからないものもあった。逆に石油省など無傷で残っているものもある。

ホテル、銀行、商店などは、戦後の混乱期に一部のイラク市民による略奪の被害にあっていた。メソポタミア文明の遺品があった博物館もそうである。イラクはいま電力不足でしょっちゅう停電がおきているが、その理由は発電所にあるのではなく、送電線などが略奪されたことによるらしい。略奪の対象は、小学校や診療所にも及んでいた。5月に再開された小学校には黒板がなかった。診療所では、備品や医薬品が奪われたところもある。

今、イラクは戦後の混乱期の真っ只中である。いったい今後誰がイラクを統治するのか、誰がイラク人を守ってくれるのか、市民の疑問に答えられる者はいない。

イラクの抱える問題点

問題点を挙げればきりがないが、端的に答えると、政府がないということ。ごみ収集などの行政による公共サービスがストップしているということ。保健行政でいえば、保健政策の不在、医師など病院スタッフに対する給料の未払いが挙げられる。またイラクでは診療所から大規模病院まで、これまですべて中央政府が一括して管理していたため、現在、指示系統の混乱や意思決定者の不在が、医療サービスの停滞を招いている。例えば医薬品は倉庫に数ヶ月分ストックされているが、それが一部の病院には行き届いていないなど、マネジメントができていない。治安の問題では、略奪が繰り返されていること。生活インフラでは電力の不足や通信網の破壊。こうした問題点を解決していかなければ復興支援は始まらない。

医療面で言えば、南部バスラ市（バグダッドから南に500km）とアマラ市や周辺の村を観察した結果、どのレベルの病院でも消化器系の疾病が多いことが分かった。アマラの総合病院の小児病棟では実に85%が消化器系の疾患であった。残りは、呼吸器系疾患、チョウバエの一種が（Sand Fly）が媒介するウイルス病（内臓リーシュマニア症）等があった。コレラの発生は病院では確認できなかったが、バスラ市保健局ではバスラ地方で66件のコレラ患者が報告されていた。

また500床を超える大規模病院では、手術に必要な酸素がない、電気がない、水が供給されていないといった、病院として根本的な問題を抱えていた。他にも入院病棟の衛生状態の悪さが目立った。

次に水と衛生の問題がある。イラク南部では伝統的にチグリス・ユーフラテス川の水を生活用水として利用してきた。南部は湿地帯で、井戸水を利用するより川や沼の水を利用する。安全な飲料水を提供するため、フセイン政権は90年代に塩分を含んだ川の水を逆浸透圧で浄化する装置を各所に設置した。しかし、91年の湾岸戦争以降の経済制裁による影響で、技術者の不足、燃料の不足、部品の不備などの問題を抱えていた。2000年のWHO（世界保健機構）の調査によると、イラク南部の都市部では90%以上の住民が安全な水にアクセスできるが、農村部では48%ほどしかアクセスできなかった。水浄化設備があったが、工事は未完成のまま終わり、沼の水はポンプでくみ上げられるだけで何の処理もされていなかった。技術者が軍隊に徴収されたり、経済制裁以降、設備投資する資金がなくなったのである。私たちが調査したときも、川や沼の水を直接利用する住民　次に水と衛生の問題がある。イラク南部では伝統的にチグリス・ユーフラテス川の水を生活用をみた。浄化装置を通した水は市内では、20リットルあたり250ディナール（25円）であちらこちらで売られている。公務員の月給が100～300ドル程度であることを考えると安くはない。

水の問題は91年以降慢性的に発生していたと思われるが、調査した医療機関では、この戦後に極端に下痢や消化器系の疾患が多発したという。

私たちが目を向けなければならないもの

バグダッドの子ども病院では入院患者の5～10%が一日に亡くなっていた。戦後、極端に病院の機能が低下した。バスラの教育病院では、数週間前に地雷で両手首を失った17歳の少年と、数ヶ月前からひざに骨肉腫をかかえる14歳の少女（それが劣化ウラン弾の影響かどうかはわからないが）が入院していた。日中40度をはるかに超えるバスラ市内で、水と電気の来ない入院生活を想像できるだろうか。しかし、彼らはこちらが日本語で“がんばって”と励ますと、にこりと笑う“生きる力”がある。彼らが生きる力のあるうちに保健行政やインフラの回復を遂げなければならないと思う。

今、イラクに求められていることは、イラク人の手による復興である。かつては中東一と言われた技術、人材、設備が財産として残っている。そして、日本に求められていることは、人道支援・復興支援に積極的に関わっていくことである。イラク政府が存在しない現在、政府による2国間援助はスムーズにできない。NGOの力が必要だ。「これまで日本はイラクにインフラ面の整備をしてくれた。日本製の車や機械が大活躍している。でも人道支援をしてくれたことがない。」イラク人スタッフの語った言葉は重い。

募金のお願い

新しく開始いたしますイラク復興支援プロジェクトへのご支援をお願いしております。

郵便振替：口座番号　01250-2-40709
　　口座名　　AMDA

＊通信欄に「イラク」とご記入下さい。

AMDA刊行物案内

「医療和平」
菅波　茂著
集英社　定価 1,575円

「緊急救援 出動せよ!!」
三宅　和久著
吉備人出版　定価 1,470円

AMDA長期プロジェクト実施国

AMDA海外プロジェクト別実施状況（2003年5月末現在）

活動国 / プロジェクト	アジア							アフリカ					中南米		
	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	スリランカ	ネパール	バングラデシュ	パキスタン	アフガニスタン	ケニア	ルワンダ	ザンビア	ジブチ	ホンジュラス	ペルー	ボリビア
病院・診療所運営	●		●		●	●			●			●			
地域医療支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
保健衛生教育	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	
生活環境改善				●	●			●	●				●		
給水・水資源		●	●												
エイズ予防対策	●		●		●				●			●	●	●	
学校教育支援	●														
青少年育成支援									●			●	●		
人材育成・職業訓練		●	●		●	●			●	●	●				●
女性自立支援	●		●		●	●				●	●	●			
小規模融資			●			●			●		●				
防災活動促進			●											●	
農林業支援		●									●		●		
難民・避難民支援				●	●		●	●		●		●			

◆AMDAプロジェクトご支援のお願い

AMDAは平和を妨げる戦争、災害、そして貧困に苦しむ人々への支援を継続してきました。来年の8月にAMDA設立20周年を迎えることができますのも、ご支援くださった皆様のお蔭とAMDAスタッフ一同感謝致しております。今後ともAMDAの活動をご理解下さり、ご支援、ご協力下さいますようお願い致します。

＊ご寄付下さいます際には同封の郵便払込取扱票をご利用下さい。指定寄付の場合には連絡欄に、活動実施国名あるいは事業名をご記入下さい。
郵便振替：口座番号01250－2－40709　口座名　AMDA

＊寄付控除に関するお問い合せは、086-284-6051ドナーデスクまでお願いいたします。
＊書き損じはがき・未使用切手とはがきを集めています。書き損じはがきは切手と交換し、通信費として使用させて頂いています。

◆AMDA会員の募集

AMDAでは、会員となってAMDAの活動を支えてくださる方を募集しています。AMDA会員である一般会員・学生会員・医師会員・法人会員の皆様には活動報告誌「AMDAジャーナル」を毎月、賛助会員の皆様には半期ごとに「AMDAダイジェスト（AMDAジャーナル号外）」を送付しております。

＊入会ご希望の方は同封の郵便払込取扱票裏面をご覧になり、必要事項をご記入の上、ご入会の手続をお取り下さい。

◆2003年夏季AMDAスタディツアー
ご　案　内

1．カンボジア　9月13日～21日
2．ザンビア　9月6日～15日
3．ネパール　8月31日～9月8日
4．ペルー　8月20日～28日

詳細はAMDAホームページをご覧下さい。　http://www.amda.or.jp
お問合せ先：
AMDA広報　上原　TEL086-284-7730